



くの学生が考える機会を与えてくれてありがとうございます」と感想を述べてくれました。

またこの日は夕方18:30～、文学部の講義室で「京大から『大学改革』の本質を考える」という講演会も行われ、「異常」とも言える学生への弾圧体制、学生自治破壊の背景にある「大学改革問題」について勉強しました(オモテ面写真)。「学生こそ大学の主人公だ」「大学改革粉碎!」の確信を深め、4日後に控えた「タテカン規制適用阻止」の決定的機運を作った1日でした! (K)



5月1日、私たちは京大当局によるタテカン規制適用=実力撤去を阻止する一日行動を行いました!

マスコミが多数が取材に訪れていたのでも既にご存知かと思いますが(写真参照)、京大当局・職員は、朝9時過ぎタテカンの自主的撤去を求める「通告書」を貼ろうとしました。それに対し学生側は当然にも前夜から待ち構え、職員を撃退し「通告書」を貼ることさえ阻んだのです。そして、現在にいたるもキャンパス周辺のタテカンは撤去されることなく、出続けています。それどころか様々な人の手によって、今も創意工夫に富んだあらたな看板がどんどん出現しています。闘いはこれからです!

1日の昼休み、同学会執行委員を始めタテカン規制に抗議する学生有志が集まり、正門前昼休み集会を行いました。当日朝の呼びかけであったにも関わらずたくさんの学生(約100人!)が集まり、マスコミの目の前で(その後弾圧職員も出てくる中で)学生集会が始まりました。

集会では、それぞれの学生がそれぞれの言葉で語っていきました。その思いはとどまることなく続き、1時間の集会は京大生の発言(あるいは歌)で埋め尽くされました。「そして自分たち学生が諦めなければタテカン文化は続くんだ」という強い意志を、その場にいた学生全員で共有できたと思います。実際、昼集会後に正門前で堂々とタテカンをつくり出す学生も現れました。

4・27解放祭に続き、1日も学生の力が当局を圧倒しました。学生の中に「自分も何かしたい」「京大の最も大事なものを一方的に壊しにかかる当局に一矢報いたい」という気持ちがどんどん大きくなってきているのがわかります。この勢いをますます拡大させ、2018年は山極体制を追い



つめ、打倒する年にします。京大から全国の学生・労働者・市民と共に、改憲・大学改革を止めましょう! (N)